

平成30年度

市立旭川病院 業務・決算報告

～市立病院ってどんな病院なの？～



令和元年(2019年)10月

市立旭川病院

目次

は じ め に	1
I 市立旭川病院はどんなところ？	2
1 どんな病院なの？	2
2 どんな特色があるの？	3
II 市立旭川病院の経営状況はどうなの？	4
1 平成30年度の決算は？	4
2 医療の提供による収支はどうだったの？	5
3 器械の購入など設備投資はどうだったの？	6
4 平成30年度は経営改善に向けて どんなことに取り組んだの？	7
5 経営状況の推移はどうなの？	8

市立病院のシンボルマーク



ハートの形のピンクとオレンジは、大人と子どもを表しています（患者さんやご家族）。ハートを囲む緑の輪が、病院で働く職員を表します。ピンクは「子どもを守る大人の優しさ」を、オレンジは「子どもの元気さや明るさ」を、緑は「森のような深い優しさ、温かさ」を意味します。

病院は、不安な気持ちでいっぱいな患者さんやご家族を温かな優しさで包み込み、心も体もケアしてくれる場所というイメージを表現しています。このマークのコンセプトは、「包み込む優しさ」です。

はじめに

市立旭川病院は、診療科24科、病床数478床を有する市内有数の公的医療機関として、平成30年度では入院で延べ約12万人、外来で約24万人の患者を診療し、地域医療の提供に大きな役割を果たしています。

近年、医療を取り巻く環境は大きく変動しており、人口減少や医師不足に加え、医療費の抑制を目標とした政策のもと、病院から在宅での治療へと体制づくりが進められており、病院経営にとっては厳しい状況となっております。

当院においても、患者数の減少や医師不足から整形外科病棟が休棟するなど、難しい経営状況が続いております。

そのような中でも、当院の基本理念と基本方針の精神に則り、市民の皆様が安心して暮らすことができるよう、職員一同努力を続けています。

平成30年度の決算内容を中心にこの冊子を作成しましたが、当院の経営状況のほか、当院の役割や取組なども合わせて、ご理解いただければ幸いです。

【市立病院の基本理念と基本方針】

《基本理念》

患者さん中心の医療を行い、
市民から信頼される病院を目指します。

《基本方針》

- 1 高度医療を担い、安全で質の高い医療を提供します。
- 2 地域の病院・診療所と連携し、地域医療の向上に努めます。
- 3 救急医療を担い、市民に安心な医療を提供します。
- 4 公共性を確保し、健全な病院経営に努めます。
- 5 教育研修を充実し、人材育成に努めます。

I 市立旭川病院はどんなところ？

1 どんな病院なの？

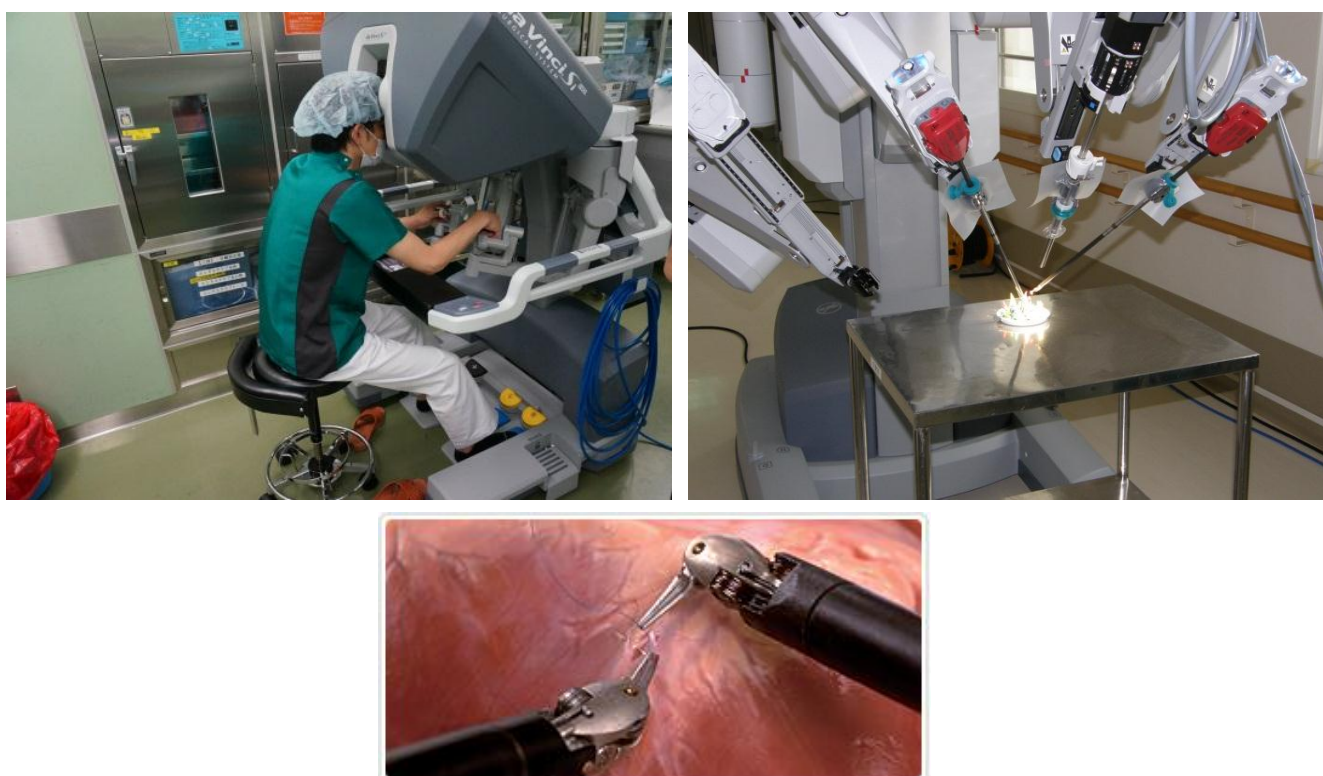
市立旭川病院は昭和5年に旭川市立診療所として開設されて以来、道北一円の基幹病院の一つとして、旭川市民をはじめ広く道民の方々の体や心の治療やケアのため、良質で安全な医療サービスを提供しています。

循環器・消化器領域をはじめとした各診療科において、高度先進医療を提供しており、特にがん治療においては、地域がん診療連携拠点病院として、治療の三本柱である、手術・化学療法・放射線治療を行っています。さらに、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や放射線治療機器など、最新の医療器械を導入することで、高度医療の提供と地域医療の質の向上に努めています。

また、地域でより良い医療を提供するためには近隣の診療所と役割を分担し、協力し合うことが必要であります。市立病院では地域の200以上の診療所に情報を登録してもらい、協力体制を構築しているほか、患者さんの病気や障害からの様々な不安や困りごとに対し、医療福祉相談体制を整えています。

そのほか、民間の病院では実施が難しい不採算医療を担うなど、公立病院としての使命を果たしながら、市民から信頼される病院を目指しています。

手術支援ロボット「ダヴィンチ」



2 どんな特色があるの？

精神科

市内の多くの身体合併症患者を引受け

精神科病棟100床を有する総合病院として、身体の病状を抱えた精神疾患の患者さんに、精神科以外の診療科と連携して治療に当たっています。

感染症指定医療機関

道北で唯一の感染症病棟を保有

感染症病棟とは一般病棟で対応するには危険性が高い感染症（SARSやMERSなど）の患者さんを収容し治療する特別な医療施設です。

2次救急

輪番5病院の1つとして救急車を受入れ

重症な患者を休日・夜間を問わず24時間体制でケアするため、市内の5病院で当番制により診療を実施。当院はその1つの病院として役割を果たしています。

小児一次救急

準夜間帯の小児診療のため、市立病院をセンター化

各クリニックで行っていた準夜間帯（19時～22時）の小児診療を、平成26年度から市立病院でセンター化し、地域の医療機関の負担を軽減するとともに、患者さんの利便性も向上させています。

夜間急病センター

24時間365日、医療を提供

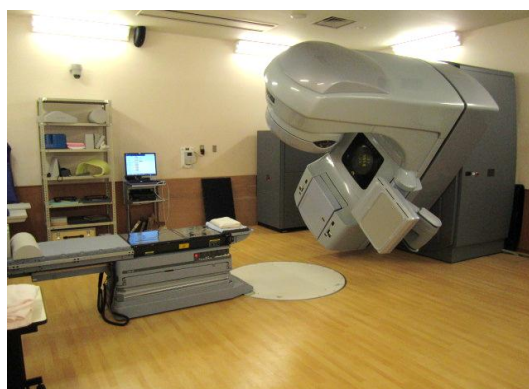
旭川市医師会で運営していた夜間急病センターを平成30年度から市立病院で運営することにより、夜間の一次救急を担い、いつでも医療を受けられる体制づくりに貢献しています。

地域包括ケア病棟

病状安定後に、在宅復帰に向けた支援を行う

平成28年度から、急性期治療を経過し、病状が安定した患者さんのための病棟を設置しており、在宅復帰に向けた治療を行っています。

放射線治療機器「リニアック」



Ⅱ 市立旭川病院の経営状況はどのような？

1 平成30年度の決算は？

市立旭川病院は、主に医療の提供に係る収入と支出をまとめた「収益的収支」と、医療器械の購入や借入金などの投資に係る「資本的収支」に分けて収支状況を管理しています。

収益的収支では、6億4,127万円の黒字となりましたが、資本的収支では、借入金の返済により、5億9,173万円の赤字となりました。

収益的収支と資本的収支を合計し、前年度からの繰り越しを合計した結果、年度末資金は7億9,562万円のマイナスとなっています。

【予算と決算】

		予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B-A)
収益的収支	収入	121億117万円	119億9,637万円	△1億480万円
	入院収益など	入院収益など	入院収益など	
	支出	117億721万円	113億5,510万円	△3億5,211万円
	給与費・薬品費など	給与費・薬品費など	給与費・薬品費など	
	差引	3億9,396万円	6億4,127万円	
資本的収支	収入	105億8,330万円	105億6,157万円	△2,173万円
	借入金など	借入金など	借入金など	
	支出	111億8,558万円	111億5,330万円	△3,228万円
	借入金の返済など	借入金の返済など	借入金の返済など	
	差引	△6億228万円	△5億9,173万円	
年度末資金		△11億3,838万円	△7億9,562万円	3億4,276万円

2 医療の提供による収支はどうだったの？

市立病院は、主に診療による収入により、経営を行っていますが、公立病院の役割の一つである不採算医療については、旭川市などから補助金を交付されています。

費用については、主に医師・看護師・薬剤師等の人件費のほか、薬品などの購入費、建物や医療器械の維持管理費に支出しています。

医療の提供にかかわる収支決算（収益的収支）

【収入】

項目	収入額	説明
医業収益	101億861万円	入院や外来での医療行為に係る収入です。
負担金・補助金	8億8,141万円	不採算な医療に関する旭川市からの負担金などです。
長期前受金戻入	8億9,847万円	減価償却費等に見合う補助金収入などです。
その他	1億788万円	駐車場の使用料などです。
収入合計	119億9,637万円	

【支出】

項目	支出額	説明
給与費	54億9,816万円	職員の人件費です。
材料費	30億4,280万円	診療に使用する薬品や診療材料などの購入費です。
経費	17億230万円	建物・医療器械の維持管理費や患者さんの給食や窓口業務の委託料などです。
減価償却費等	7億3,385万円	建物や医療器械の使用に伴う資産価値減少分です。
研究研修費	5,011万円	医療の質を保つために必要な医師・看護師・薬剤師等の研修費などです。
支払利息	2億5,192万円	借入金の返済利子です。
その他	7,596万円	税務署に納める消費税などです。
支出合計	113億5,510万円	

3 器械の購入など設備投資はどうだったの？

市立病院は日々進歩する医療技術に対応し、高度な医療ニーズに応えるため、医療器械の整備・更新を毎年度行っています。

医療器械は高額なものも多く、器械が古くなるとメンテナンスや修理に多額な費用がかかるため、計画的に更新を進めていくことが必要となります。

また、平成30年度は借入金返済額の平準化を目的に、借換えをおこなったため、収入・支出とも合計額が多くなっています。

設備投資にかかわる収支決算（資本的収支）

【収入】

項目	収入額	説明
企業債	9,680万円	医療器械を整備するための借入金です。
企業債（借換債）	96億3,630万円	企業債の借換えのための借入金です。
補助金	1,076万円	医療器械を整備するための補助金です。
一般会計負担金	8億1,771万円	借入金を返済するための旭川市の負担金です。
収入合計	105億6,157万円	

【支出】

項目	支出額	説明
建設改良費	2億408万円	医療器械整備費の合計額です。
器械備品	1億1,777万円	医療器械の購入費です。
リース債務支払額	8,631万円	医療器械のリース費用です。
企業債償還金	13億1,210万円	借入金の返済元金です。
企業債償還金（借換債）	96億3,712万円	企業債の借換えの返済元金です。
支出合計	111億5,330万円	

※収入が支出に不足する額5億9,173万円については、一時借入金等で補っています。

4 平成30年度は経営改善に向けて、 どんなことに取り組んだの？

①夜間急病センターの運営

効果額＋5,893万円

夜10時から翌朝の7時30分まで（休日の朝は8時まで）診療を行う夜間急病センターを平成30年度から市立病院で行っています。

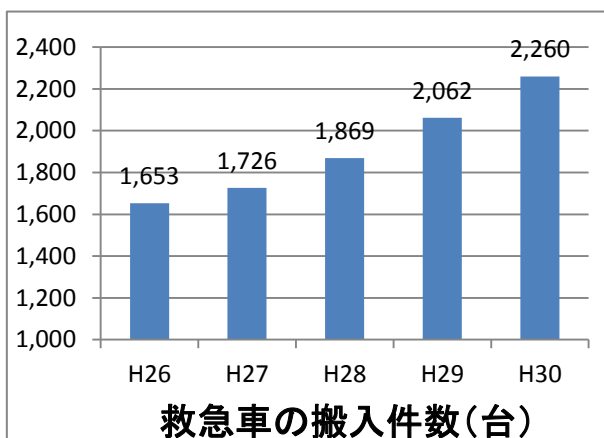
②給与削減

効果額＋1億1,100万円

今後の財務状況を踏まえ、平成30年11月から令和2年10月までの2年間、市立病院独自で職員の給与削減を実施しています。

③断らない救急

救急車の搬入について、人員に限りがある中でも、可能な限り受け入れるよう努力し、毎年搬入件数を増やし、地域の救急医療に貢献しています。



④精神科領域の新たな加算取得

効果額＋1億1,625万円

精神科領域の看護師の資格取得など、治療体制を充実させ医療の質を高めたことにより、診療報酬上の新たな収入を得ることができました。

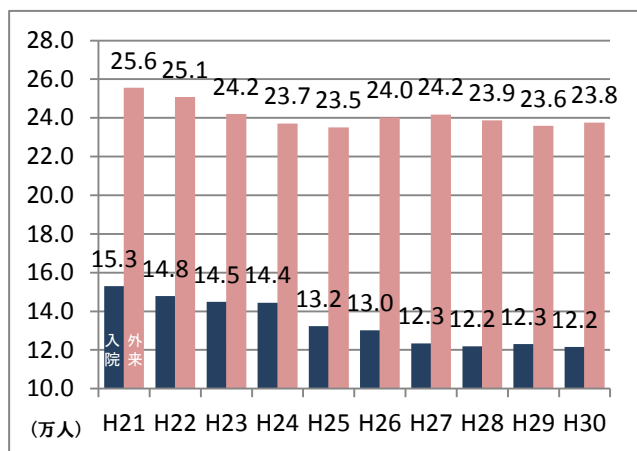
⑤企業債の借換え

効果額＋1億5,300万円
(効果は令和元年度から)

病院建物に係る借入金の返済額を平準化するため、平成4年度から平成13年度までに借り入れた企業債の残高約100億円の借換えを実行しました。

5 経営状況の推移はどうか？

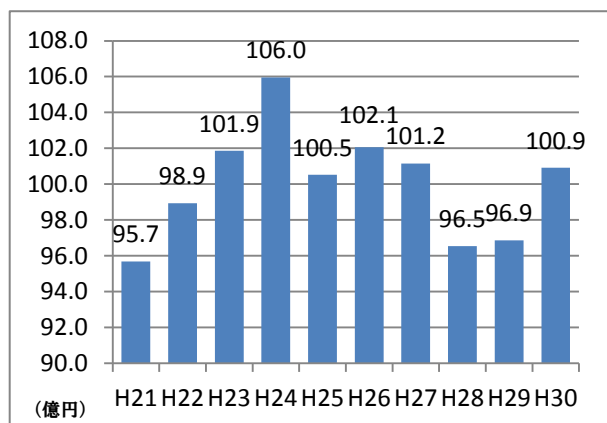
延べ患者数等の推移



市立病院は入院と外来を合わせて年間約36万人の患者さんの診療に当たっていますが、人口減少などの影響で患者数は減少傾向にあります。

患者さんの減少に合わせて、病床数を削減するなど、コスト削減の努力をしていますが、厳しい経営状況が続いています。

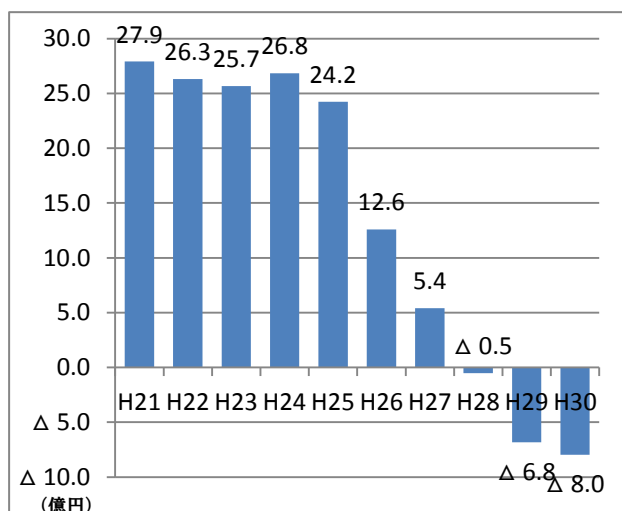
入院や外来の収入（医業収益）



平成30年度は救急車の受入増や精神科領域に係る診療報酬加算の取得などの経営努力により、4年ぶりに収入額を増加させることができました。

精神科や小児の一次救急など、市民にとって必要な医療を提供するためには、安定した経営が必要なため、経営状況の改善に努める必要があります。

資金残高（貯金額）の推移



一般家庭でいう貯金額に当たる資金残高は最近の厳しい経営状況から大きく減少しております。

資金残高がこれ以上減少すると、自律的な経営に支障をきたすため、今後も改善に努めています。

発行：令和元年（2019年）10月

編集：市立旭川病院事務局経営管理課

070-8610 旭川市金星町1丁目1番65号

TEL：0166-24-3181

FAX：0166-27-8505

<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/hospital/>